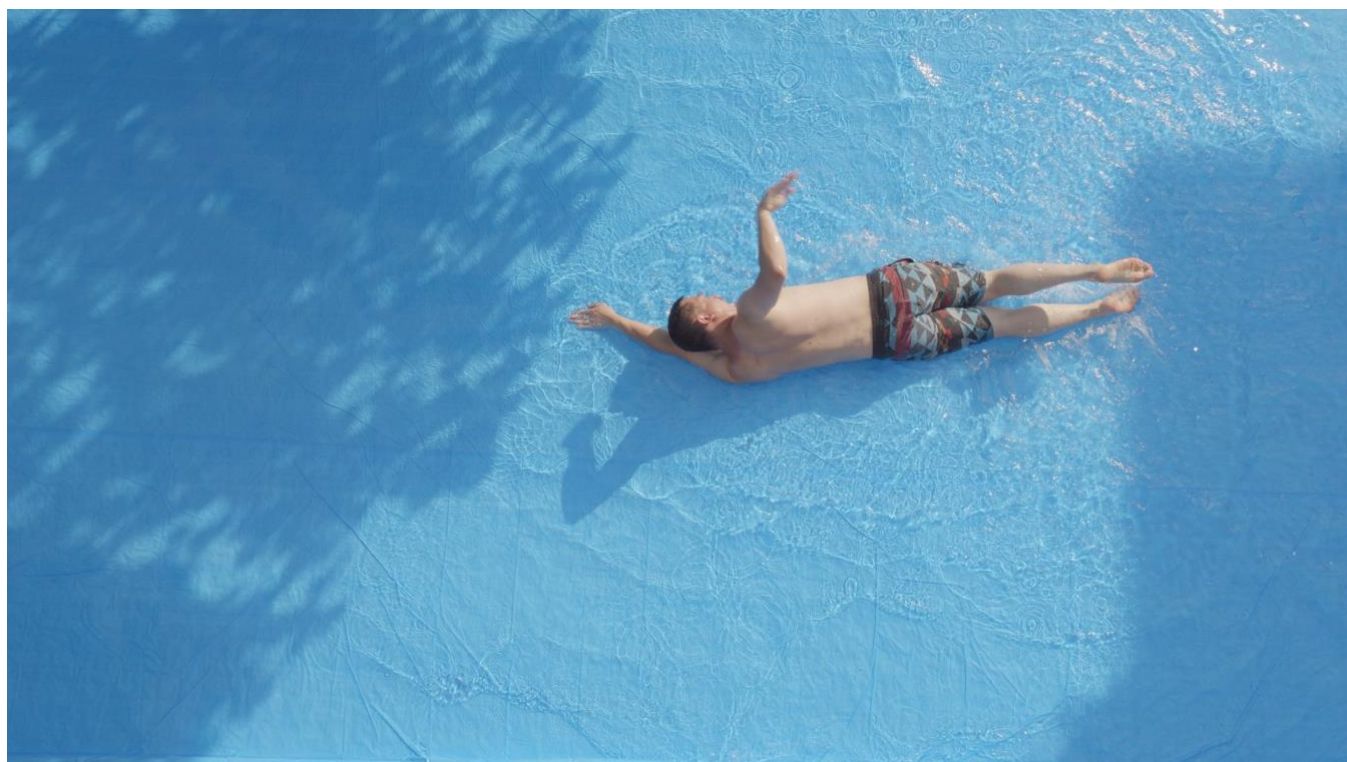


山本篤「映像小屋」 / ShugoArts Show**山本篤、千葉正也、小林正人**

2023年7月29日(土) – 9月9日(土)



山本篤《泳ぐ人》2023, UHD, 4min. 05sec.

自分が映像というメディアに惹かれるのは、自分の人生を一つの表現として、記録としてそこに転写できると考えているからだと思います。

そして、映像＝光であり、その光の有無＝存在の有無につながっているところも好きです。

フィジカルな物体ではなく、現象としての存在であること。なので、結局、自分は映像作品の制作を通して「存在論」の周辺を動き続けているとも言えます。

こんな自分の映像は恒常的な空間ではなく、仮設的な「小屋」で上映されるのがふさわしいのかもしれない。

2023年5月 山本篤

山本篤の作品には虚飾がない。

山本はよく「自分は反応体」だという。環境によって引き起こされる自分の反応、つまり、ある現象として存在する自分自身の思考や感情を、物質的な世界に存在させるためのメディウムとして映像を選んだ。そのため一見ナンセンスに見える山本の作品は、全て本人を通じて感じ取られたあらゆるリアリティの断片なのである。



山本篤《映像小屋》2017-2023, UHD, 8min. 18sec.

山本は平日、非営利団体に勤めて社会のために仕事をする。帰宅して奥さんや子供達、両親と時間を過ごす。そして週末は一人で、またはアーティストの仲間達と、ときに家族も巻き込んで制作を行う。作り溜めた作品数は291本になった。撮影している時間は「自分の人生が定着する」最高の瞬間なのだという。撮影中は思い通りにならないことも多い。うっかり知らない間に撮れてしまったものもある。それでも映像に映ったものを全て自分ごととして引き受けて作品にしている。日常もアートも人生も山本篤に境界線はない。だからこそ山本作品は地に足がついた芸術で、滑稽も悲哀も含めてとても美しい。



山本篤《The ghost from the city of ghosts》2019-2023, UHD, 8min. 48sec.

「映像小屋」はそんな山本の作品を年に一度、大画面で思いっきり見るための企画である。今回はギャラリーの前室を暗室にし、7本の作品を上映する。またギャラリーの後室は千葉正也のドローイング、小林正人らの作品を展示する予定である。夏の一品にぜひシュウゴアーツへお立ち寄りください。

2023年6月シュウゴアーツ

山本篤・映像小屋 / ShugoArts Show

山本篤、千葉正也、小林正人

会期：2023年7月29日(土) - 9月9日(土) *夏季休廊：8月13日(日) - 8月21日(月)

会場：シュウゴアーツ

開廊時間：火～土曜 11:00 - 18:00 (日月祝休廊)

企画：石井美奈子

協力：ベンキュージャパン

山本篤

1980年東京都生まれ。多摩美術大学絵画学科卒業後、2003年に単身ベルリンへ渡り映像制作を始め、これまでに200本以上の作品を制作している。生真面目なまでに日常生活の中で制作を実践し続ける姿勢は、勤め人として、父親として生活を営む現在でも変わらない。主な展覧会に「MY HOME IS NOT YOUR HOME」シュウゴアーツ(2022)、「祈りのフォーム」Art Center Ongoing(2020)、「どう生きるか #2 六本木にて」シュウゴアーツ(2018)、「MAM スクリーン 07」森美術館(2017-18)、「国立奥多摩映画館」国立奥多摩美術館(2016)など。

シュウゴアーツ 106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

プレスに関するお問い合わせ：石井・藤田 gallery@shugoarts.com

106-0032 東京都港区六本木6丁目5番24号 complex665 2F / 03-6447-2234

企画：石井 minako@shugoarts.com プレスに関するお問い合わせ：石井・山田 gallery@shugoarts.com

◆シュウゴアーツ アーティスト情報はこちらをご覧ください：<https://shugoarts.com/topics/>